

さるしま junior

第2号（春—その2）

令和3年4月16日発行

園長 小菅 哲也

諏訪幼ラストイヤー、上々のスタートが切られました！

令和3年（2021年）4月8日（木）。諏訪幼稚園の最終年度が幕を開けました。たいへんうれしいことに2名の新しい友達を迎えて、さくら組・11名での船出です。



予定より5分早く始まった始業式。気持ちの切り替えの早さや、ピンと伸びた背筋、話を聞く真剣な表情からは、年長さんとしての自覚や今年にかける意気込みがひしひしと伝わってきました。

圧巻は、園歌を歌うときでした。マスクをしていて歌いにくいにもかかわらず、瞳をキラキラと輝かせながら力いっぱい歌い上げました。歌っているときの姿勢は、背筋だけではなく、指先までピンと伸びている子もいました。一人ひとりにやる気とエネルギーとがみなぎっていて、思わず魂が揺さぶられる感じでした。

式の中で、園長からは、「3つの『あ』を大切にしてほしい」という話をしました。

3つの「あ」とは、「あいさつ」「ありがとう」「あさごはん」です。憧れのさくら組の名札を渡すときには、さっそく「ありがとう」を行動に移してくれている子がたくさんいました。園児数こそ少ないものの、諏訪幼稚園のフィナーレを飾るにふさわしい、素晴らしいさくら組に成長してくれそうな期待が大きく膨らむ一日でした。



アスレチックの“すり傷”に思う…



3月29日（月）。気温22度。満開のサクラや菜の花が気持ちよさそうに風にそよいでいます。子どもたちが大事に育てているチューリップは、陽光を浴びて大きな花を咲かせています。ジャガイモもいっせいに青い芽を吹き始めました。

春のにぎわいの中、ひとり静かに園庭の真ん中に立つアスレチック。春の声に耳を傾けているのでしょうか。しばしの休憩をのんびりと楽しんでいるのでしょうか。遊び相手がいない寂しさを感じているのでしょうか。



ふだんは、お馴染みの赤・青・黄の鮮やかな色合いが真っ先に目に飛び込んでくるアスレチックですが、なぜかこの日ばかりは、ペンキがはがれ落ちた階段やデッキ、リングトンネルに目を奪われました。



今まで何人の園児がこの階段を上ったのでしょうか。

どんな思いを抱きながらこの階段を上ったのでしょうか。

今まで何人の園児がこのデッキに立ったのでしょうか。

デッキの上からどんな景色を眺めたのでしょうか。

今まで何人の園児がこのトンネルを抜けたのでしょうか。

どんなことを考えながらトンネルをくぐり抜けたのでしょうか……



諏訪幼稚園で過ごした歴代の子どもたちが日々刻み続けた、アスレチックの“すり傷”のような模様を見つめながら、「今年は、アスレチックにとっても特別な1年なんだな」ということを思わずにはいられませんでした。鉄棒も、教室やプレイルームも、トイレも、植物も…みんな同じ気持ちに違いありません。

天気はぽっかぽか、心はふっかふか

4月12日(月)。園庭にて「春さがし」が行われました。諏訪幼稚園ではおなじみとなった3グループによる活動です。2~4人のグループに分かれて、プランターの下にひそむ虫を探したり、鳥の声に耳を澄ましたり、いろいろな種類の花を見つけたり、植物の葉の手触りを感じたり、自分の好きな香りの花を見つけたり…、五感をフルに使っての活動です。



この日は、青空に大きな雲が浮かんでいました。それを思い思いの言葉で表現する子どもたち。「もくもく」「ふわふわ」「絵の具で塗ったよう」「アラジンみたい」「エビにそっくり」「見るたびに形が変わるよ」など、観察力と想像力を思う存分発揮していました。

小学校低学年までにとっぷりと体験しておきたい、体をいっぱい使った、心のひだに触れる活動。心の土壌がふっかふかに耕されたことでしょう。校庭では、真新しい帽子の1年生が春を探してきびきびと動き回っています。先輩たちがどんな春を見つけたか、気になるところです。



*「さるしま junior」は諏訪幼稚園のホームページでもご覧いただけます。